

おわりに

伊都キャンパスへ六本松地区が移転し、2009（平成 21）年 4 月からセンターゾーンにおいて全学教育が開講した。新キャンパス統合移転事業は第Ⅲ期に入り、用地再取得の完了を待って、理学系から順次移転が始まることになる。

九大学研都市駅周辺や元岡地区のサポートゾーン等は、着々と整備されており、学生の居住環境や、電車、バス等の交通インフラも充実しつつある。2010（平成 22）年 1 月には糸島市が誕生し、九州大学学術研究都市の整備、実現にむけて、新たな一歩を進めることになった。

国際的金融危機ははまだ収束せず、国立大学法人への運営費交付金の削減、競争的資金の削減など、大学にとって予断を許さない状況は続いている。天然資源に乏しい我が国が、今日の繁栄や国際的地位を築くことができた原動力は、優れた人材と科学技術・学術の力にあり、持続可能な社会を支える知的なインフラとしての大学の機能は、今後ますます重要になるといわれている。九州大学の総合研究ならびに同教育の拠点である伊都キャンパスにおいて、様々な事業が早期に完了できるよう、各方面のご理解とご支援をお願いする次第である。